

Carport project

— 平成18年度・平成19年度 富山県元気な雪国づくり事業 — 雪国にふさわしいカーポートの提案

富山大学芸術文化学部 丸谷芳正 秦正徳 矢口忠憲 渡邊雅志

事業の概要

背景と目的

道路整備の進んでいる富山県ではマイカーは生活にとけ込んでおり、2人以上の世帯についての自動車普及率は95.7%と全国第5位（平成16年度）である。降雪期の利便性を考慮すると屋根付きが望まれ、家屋の前面に位置する大きなカーポートは街並みの景観を損ねている場合が多い。本研究は、冬季における自動車利用の不便さの一つを解消するだけでなく、美しい街並みを形成する要素として捉え、カーポートに配慮することで、生活の質を高め、心身共に明るく元気な雪国の生活を目指す。

現地調査

県内アンケート（報告書参照）調査対象地域決定のための予備調査、また降雪地域および無降雪地域に対し現地調査を行った。

- 予備調査1：県内（太閤山、東太閤山、常国、中田、鐘紡町）平成19年1月18日
- 予備調査2：県内（高屋敷、月岡、北島）平成19年2月2日
- 現地調査1：北海道（札幌市内）平成19年2月15日～17日
- 現地調査2：福井県（福井市、大野市）平成19年2月28日
- 現地調査3：新潟県（上越市）平成19年3月7日
- 現地調査4：県内（鐘紡町、東太閤山、常国、北島）平成19年3月9日
- 現地調査5：県内（高屋敷、月岡、希望が丘）平成19年3月16日
- 現地調査6：北海道（無降雪期の札幌市内）平成19年9月20日～21日
- 現地調査7：岡山県（岡山市郡、吉備中央町）平成20年3月8日～9日

北海道 札幌市（降雪地区調査例）

札幌市：札幌市内の南区、豊平区、中央区、清田区、厚別区に点在する住宅地。

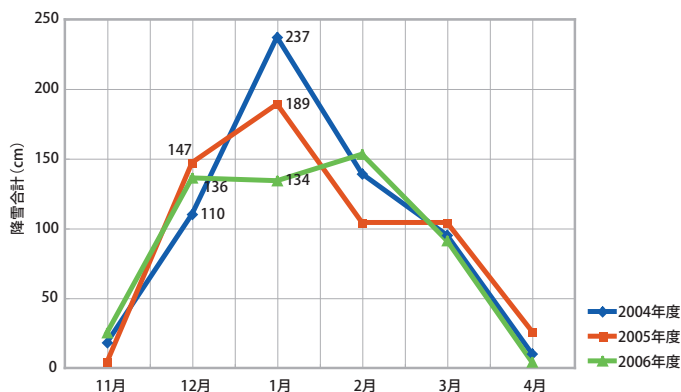
調査日時：2007年2月15日（木）～16日（金）

調査員：丸谷、渡邊

雪量：降雪合計（単位cm）：気象庁ホームページ気象統計情報より

札幌市の特徴：

- 北海道独特のカスケードタイプの車庫が非常に目立つ。質実剛健なプロダクトがこの環境では求められていたことが伺える。しかし景観までの配慮は成されていない。
- 冬の厳しい環境のせいか、カーポートは非常に少ない。
- ビルトインや車庫タイプ、高床式がメイン。
- カスケードタイプを規制しカーポートを推奨している地区もあった。
- 今年（2006年度）は例年に比べさらに1月の降雪量が減っている。





現地調査（参考例）：北海道 札幌市清田区 平岡公園3

清田区平岡公園東3の特徴：

開発時期：昭和60年代頃～

立地条件：高速道路に隣接する通勤圏。市内まで7キロ。区画にゆとりがあり、街路樹のある通りもある。

- 1 歩道が広く街路樹のあるストリートからも環境に意識のある地域ようだ。（⑤⑥）
- 2 各家の工夫で母屋との調和を意識していることがうかがえる。（②③④）
- 3 ビルトインが少ない地域。カスケードとカーポートがほとんど。（①②③④）

環境調和に繋がるキーワード：

製品単体だけではなく、道や街路樹、歩道などの要素も重要なキーワード。

調査写真（右6点）：

- ① 鉄骨の頑強な無落雪タイプ
- ② 正面の帯をカラーリング
- ③ 母屋に合わせたカスケードのカラー
- ④ 母屋とのデザインバランスを考慮
- ⑤ 広い歩道と街路樹がゆとりを生む
- ⑥ 街路樹の有無で街並みの印象が変わる



①



②



③



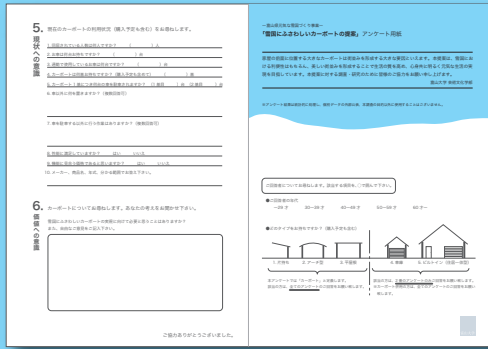
④



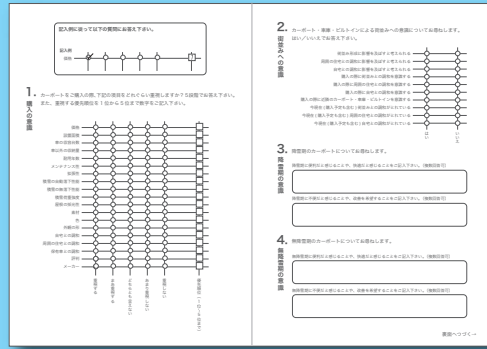
⑤



⑥



アンケート用紙 外側面



アンケート用紙 内側面

アンケートの実施

カーポートの現状を把握するためのアンケートを実施する。アンケートは富山市5地区、高岡市3地区、射水市2地区に配布した。アンケート配布総数966部に対しアンケート戻数は90であった。アンケートの詳細な内容については別紙報告書を参照。

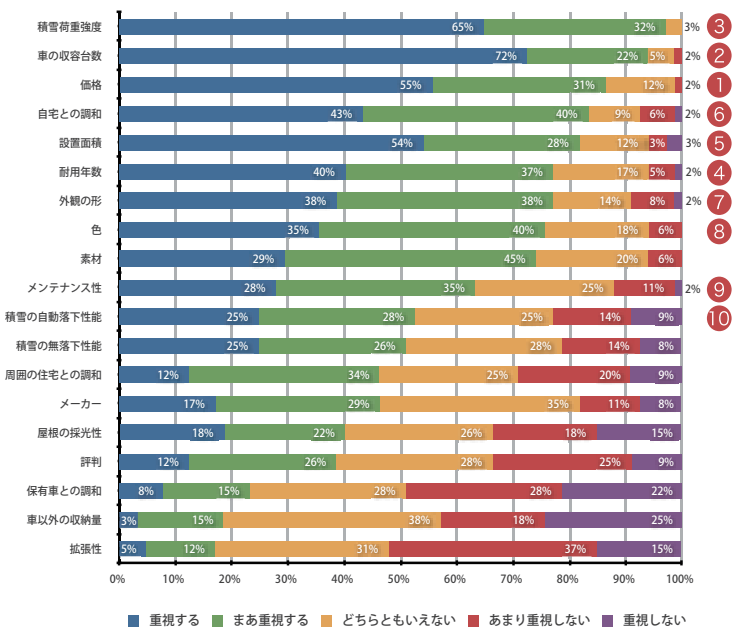
アンケートの集計（一部抜粋）

「1.購入の意識 カーポートをご購入の際、下記の項目をどれくらい重視しますか？ 5段階でお答えください。」に対する回答。

重視する項目の優先順位TOP10

（グラフ右端の赤丸数字）

- | | |
|----------|-------------|
| 1 価格 | 6 自宅との調和 |
| 2 車の収容台数 | 7 外観の形 |
| 3 積雪荷重強度 | 8 色 |
| 4 耐用年数 | 9 メンテナンス性 |
| 5 設置面積 | 10 積雪の無落下性能 |



雪国にふさわしいカーポートの提案

街並み景観に配慮したカーポートの諸条件
—プロダクトデザインとしての可能性—

母屋との関連性 —母屋と結びつくデザイン—

- ・母屋を意識したコーディネートが出来ること (①)
- ・母屋と同じ建築要素を持つことも答えのひとつだが、同じである必要はない (②)

街並との関連性

—道路と母屋との中間領域としてのデザイン—

- ・エクステリアとしてのカーポートのデザイン (②)
- ・街並み要素としてのカーポートのデザイン (②)

機能性との関連性

—車のためではなく人のためのデザイン—

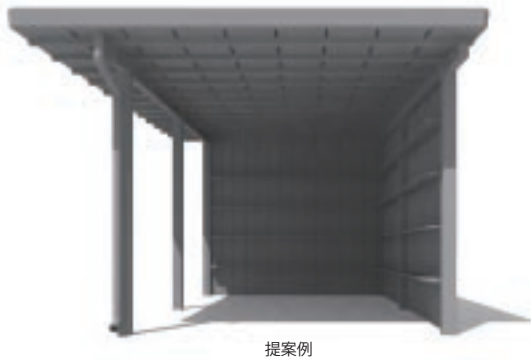
- ・玄関アプローチ (③)
- ・収納スペースからみえる人の姿 (④⑤)

法令との関連性 —制限の中のデザイン—

- ・カーポートが建築物であることの認識が薄い
- ・建ぺい率を守ることで無秩序から脱皮する
- ・改善には消費者のみならず供給側（メーカー、設計者…）も意識の向上が必要 (⑥)

調査写真（右6点）：

- ① 屋と素材や工法を合わせる
- ② 家や区画内でのバランスも重要
- ③ カーポートと母屋をつなぐ人の動線
- ④ 明確な置き場所があるという質の高さ
- ⑤ 趣味の場としての活用の可能性
- ⑥ これからカーポートが建つ敷地



提案例

雪国にふさわしいカーポートの提案一例

デザインコンセプト

人を見つめ直してみえてきたもの

—カーポートが生活を楽しむ道具となる—
車のため？人のため？

車を駐車するためだけではなく、もっと人が生活を楽しむ場所（道具）として見直すことで、カーポートはもっと人に近づく。それは、ありそうでなかった、自然な関係。寄り添うように、それはありたい。

むすび

新しい分譲地にはカーポートのない戸建住宅が売られ、2、3年も経つと各戸の前面にカーポートが設置され、街並みはカーポートで形成されるに至る。富山県のこのような景観に疑問を持ち本研究がスタートした。現地調査では札幌、新潟、福井、岡山を訪れ富山と比較した。気候条件、インフラ、メーカーからの供給等条件が整い富山県はカーポート王国であることがわかった。また、札幌ではカスケード型車庫からカーポートにトレンドが移行していることも興味深かった。

富山県内のアンケート調査では住まい手の意識はカーポートの性能や価格、母屋との関連性を重視し街並との関連性に対しては意識が低いことがわかった。カーポートのような付帯建築物はややもすると見過ごされやすい存在であるが、調査した膨大な街並みの写真を見るとカーポートが街並みに与える影響が大であることがはっきりとわかる。

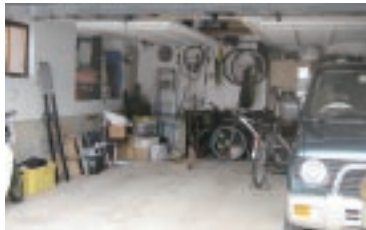
2年間の研究期間中、3度にわたりメーカー・行政・建築設計・デベロッパーの方々を招き意見交換会をひらいた。そのなかで「プロダクト製品としてのカーポートが街並みを整える可能性があるのだろうか」という意見がよく出た。研究に携わった者として「はい」と答えたい。多くの住まい手は母屋に全力を注ぎ、内（母屋）と外（街並み）をつなげる中間領域（庭・アプローチ・カーポート等）にまで配慮が及ばないのが現状で、その結果、様々なデザインの住宅が立ち並ぶことになる。街並みを形成する要素は様々であるが、まずは住まい手の一人一人が街並みに意識を向けることが重要である。本研究をベースに今後は「雪国にふさわしいカーポート」の製品化と街並み景観に対する啓蒙活動を行っていきたい。



①



②



③



④



⑤



⑥